

第6学年A組 音楽科学習指導案

授業者 大山 光子
研究協力者 吉澤 恭子

1 題材名 曲の感じを生かして、豊かに表現しよう ～ぼくらの日々～

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは、これまでの歌唱表現の学習において、かけ合いや重なりのある二部合唱を経験してきている。学校行事での学年合唱などでは、曲想や歌詞の内容などの曲の特徴に合わせた表現を工夫するとともに、気持ちを歌声で表わし伝えようとする姿も見られた。また、二部合唱で二つの声部の音の重なりに心地よさを感じたり、きれいに重なっている合唱のよさを実感したりすることができた。このように、合唱のよさを味わいながら歌うことに取り組んできており、学級の仲間と歌声をつくっていく段階でも、バランスよく声を重ねるよさや響き合う楽しさを感じ始めている。

その一方で、合唱することが、楽譜通りに歌うことができている状態にとどまっている。例えば、強弱記号であれば、「ただ強く歌えばよい」という考えをもつことはあっても、「どのように表現して歌えばよいのか」という問いをもつまでには至っていない。

(2) 題材について

本題材では、曲想と音楽の構造との関わりを理解し、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しながら、よりよい音楽表現を目指し、思いをもって歌うという資質・能力を引き出すことを目指す。豊かに表現するためには、楽譜に書かれていることを一つ一つ読み解いていくことが大切である。「なぜ、そのような曲のつくりにしたのか」「それは、どんな効果があるのか」と考えることで、楽譜から読み取ったことを基に表現の幅も広がっていくものとする。

本題材で取り上げる教材曲「ぼくらの日々」は、ハ長調、4/4拍子、二部合唱の曲である。これまで一緒に過ごしてきた友達のことを大切に想う気持ちが歌詞に表れており、歌詞の内容と今の自分たちを重ね合わせることができ、共感できる部分があると考えられる。また、子どもたちにとって歌いやすい音域であることから、無理のない発声で歌うことができ、なだらかな起伏の旋律で構成されているため、口ずさみやすく覚えやすい曲である。

二部合唱の部分では、和音の響きや音の重なり方など、曲の仕組みや特徴に着目することで、曲の感じを生かした表現を工夫することが期待できる。音の重なりや音色（声色）、音楽の縦と横の関係を意識しながら、自分たちらしく表現する姿を期待し、本題材を設定した。

(3) 指導について

曲との出会いの場面では、作詞者からのメッセージ映像を視聴や、歌詞を声に出して読む活動を取り入れ、歌詞の内容と今の自分たちの姿を重ね合わせ、曲のイメージを思い描くことができるようにしたい。また、同じ曲であっても演奏する人によって表現の違いがあることに気付くことができるように、先輩たちが歌った動画を視聴したり、学年音楽の時間を設け各学級の演奏を聴き合ったりする活動を設定し、自分たちだけの演奏を作り上げるという意欲を高めていきたい。

曲のつくりや特徴を捉えるために、楽譜を読み解く活動を位置付ける。楽譜を読み解くとは、拍や速度、強弱などの音楽記号を確認するだけではなく、強弱を記すことがどんな効果をもたらすのか考えるなど、自分なりに解釈することである。さらに、音楽的な根拠をもち言葉で伝え合い、共有する場を重視することで、よりよい表現へとつなげていきたい。

和音の響きや音の重なりを再確認することができるように、初めに主旋律のみの楽譜を提示する。「主旋律だけでもいい曲だけれど、何か物足りない」と感じる子どもの反応を受け、二部合唱の楽譜を提示する。各声部が歌えるようになった段階で、自分の役割を意識し、自信をもって歌うことができるように、歌い合っていく場面では、少人数でのアンサンブル活動を取り入れる。さらには、ピアノ伴奏付の楽譜を提示することで、表現していく中での伴奏の効果にも気付かせたい。

合唱をつくり上げていく段階では、「こう表現したい」という思いが伝わっているかなど、お互いのよさを確かめることができるように、「演奏する役」と「聴き役」に分かれて歌ったり聴いたりする活動を取り入れる。また、自分たちの演奏を録音し聴くことを通して、音の重なりや表現の仕方がどうであるかなど音楽を形づくっている要素に着目し、自分たちの目指す表現に近付いているのかを振り返ることができるようにする。歌声のスキルアップを図りながら、自分たちの音楽表現を見つめ直し、思いを大切にしたいよりよい表現を引き出したい。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すると共に、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴き、周囲と調和しながら歌うことができる。 〈A-6・15〉
- (2) 自分なりにどのように歌いたいのか思いや意図をもち、曲の特徴にふさわしい表現を工夫している。 〈[共通事項]1・A-3〉
- (3) よりよい音楽表現を目指して、自分なりの目標をもち、互いに支え合いながら音楽活動しようとする。 〈イ・オ〉

4 題材の構想 (総時数 5 時間)

5年 声のひびき合いを感じながら、合唱しよう 「ハロー・シャイニングブルー」
 ・音の重なり ・強弱 ・かけ合い

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との 関連)
1	<p>(1) 「ぼくらの日々」を聴き、曲全体のイメージを捉えたり、楽譜から分かることを読み解いたりして、曲の特徴を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにぴったりの歌詞だ。 ・ブレスの位置でまとまりをつくと、フレーズ感が分かるよ。 ・斉唱もいいけど、やっぱり合唱がすてきな響きになるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲のイメージを思い描くことができるように、作詞者からのメッセージ映像の視聴や、歌詞を声に出して読む場を設定する。 ・楽譜を見た気づきを共有できるように、拡大楽譜にイメージを書き込み掲示する。 ・和音の響きや音の重なりによさに気付くことができるように、主旋律のみの楽譜、二部合唱の楽譜、伴奏付の楽譜を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴を理解し、どのように歌いたいのか思いをもっている。 (A-3) ・曲想と音楽のつくりとの関わりについて理解している。 (A-6)
<p>学習課題 曲の感じを生かして、「ぼくらの日々」を合唱しよう。</p>			
2 ・ 3	<p>(2) 「ぼくらの日々」の上声部・下声部を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声が出しやすい音の高さだけど、地声にならないようにしよう。 ・主旋律が途中から下パートになるから、声量のバランスに気を付けなくちゃいけない。 <p>(3) 「ぼくらの日々」の後半部分のつくりのポイントをしばって歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じを生かして歌うことができるように、フレーズ感を大切に、曲のつくりを確認しながら歌う場面を設定する。 ・各パートの役割を意識しながら音の重なりを付けて歌うことができるように、主旋律やオブリガートの部分を楽譜で確認するよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽のつくりとの関わりについて理解して歌っている。 (A-6) ・音の重なりや和音の響きに着目し、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して歌っている。 (オ, A-3)
4 本 時	<p>(4) 自分たちの表現を目指して「ぼくらの日々」を合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の最後が繰り返されているのには意味があるから、丁寧な歌い方にしよう。 ・〇〇さんたちの言葉の伝え方は、きれいな発音から大事に歌っていることが分かるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが目指す表現に近づいているかを確認することができるように、強弱や音の重なり、反復と変化など(学びのものさし)に照らして聴き合い、よさや課題を伝え合う活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴に着目して、音楽的な根拠と自分たちの思いを関連付けながら、強弱や音の重なり、反復と変化などの表現を工夫して歌っている。 (オ, A-3, 6)
5	<p>(5) 「ぼくらの日々」を合唱し、聴き合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって歌い、互いの表現のよさを実感することができるように、学年音楽の場を設定し、各学級の合唱を聴き合う活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、各声部の歌声や全体の響きを聴いて歌っている。 (イ, A-3, 15)

◎本題材で育む主な資質・能力
 曲想と音楽の構造との関わりを理解し、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しながら、よりよい表現を目指し、思いをもって歌う。(オ, A-3, 6, 15)

ひびき合いを生かして 「ロックマイソウル」「カノン」
 ・音の重なり ・縦と横の関係 ・反復と変化

5 本時の実際（4 / 5）

- (1) ねらい 強弱や音の重なり，反復と変化に着目し，楽譜から読み取ったことと自分たちの思いを関連付ける活動を通して，自分たちの表現を工夫して歌うことができる。
 〈オ，A-3，6〉
- (2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり，自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
5分	① 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習課題 曲の感じを生かし，自分たちの思いを重ねて合唱しよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの目指す表現の方向性を確かめることができるように，前時までの到達度を振り返る場を設定する。
35分	② 自分たちの表現を目指して合唱する。 〈予想される子どもの反応〉 <ul style="list-style-type: none"> ・6 Aだけの合唱にしたいから，大切な仲間のことを思いながら歌ってみる。 ・主旋律に注目して，パートの役割を考えて歌ってみよう。 ・少ない人数でやってみるのもいいね。 ・声の重なりは，フレーズごとに確かめていくとよいかもかもしれない。 ・ぼくは，「言葉」の意味をしっかりと伝えたいから，語頭をはっきり発音して歌ってみよう。 ・強弱で曲の盛り上がり表現するけれど，きれいに強さを出すためには，弱さ加減に気を付けなくてはいけない。 ・私は「君がいること」という歌詞を一番伝えたいから，弱から強への変化を強調して歌いたい。 ・〇〇さんたちの声のひびきは，声量のバランスがいいから，とても心地よく聴けるのだと思う。 ・1番と2番の終わり方が違うのは意味があるはずだから，歌い方も変えたらいいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じを生かした自分たちの表現の工夫を意識できるように，「声のひびき」「言葉」「音楽にこめられた思い」「音楽に託したい思い」など，合唱のポイントを掲示しておく。 ○自分たちが目指す表現について「こんなふうに歌いたい」という思いと音楽的な根拠を関連付けて伝え合う場面を設定した上で試して歌う活動に入る。 ・工夫することのよさを認め合うことができるように，声の響きや言葉を意識して歌い方を工夫している子どもをモデルとして紹介する。 ○自分たちが目指す表現に近付いているかを確かめることができるように，強弱や音の重なり，反復と変化など（学びのものさし）に照らして聴き合い，よさや課題を伝え合う活動を設定する。 ○聴き合ったことを基に，自分たちの表現をより工夫することができるように，視点を明確にして歌い直す場を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">曲の特徴に着目して，音楽的な根拠と自分たちの思いを関連付けながら，強弱や音の重なり，反復と変化などの表現を工夫して歌っている。</p> <p style="text-align: right;">〈オ，A-3，6〉</p> <p style="text-align: center;">（歌っている表情や様子・歌声・発言）</p> </div>
5分	③ 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「今日という日がぼくらの心をつないでる」の繰り返しの歌い方が6 Aの聴かせどころになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの表現のよさを実感したり，次時の課題を確認したりすることができるように，歌い直したことを基に振り返る場を設定する。